第二章

キャンパストレジャー CAMPUS TREASURE Vol.4

神原文庫

記録をたどり、貴重な資料の海へ漕ぎ出そう。

神原先生の人物像と神原文庫への思いをご子孫に伺いました

香川大学初代学長・神原甚造

先生は人格高邁、資性醇厚、事理の弁別にあたっては、つねに明敏透徹の処断を下されつつも、温容の雅量はよく後進を導かれ、学生の育成にもなみなみならぬ熱情をそそがれた。先生は長く法曹の人として、事理の究明に精進せられたが、他面、ゆたかな詩情をもたれ、そのすぐれた詩藻は人々に深い感動をあたえるものが少なくない。

『神原文庫分類目録』序文（昭和39年）より抜粋

聞き手
香川大学教育学部 教授
守田 逸人
東京都出身。早稲田大学大学院文学研究科史学（日本史）専攻博士後期課程修了。博士（文学）早稲田大学（2007年）。香川大学教育学部准教授を経て、2022年4月より現職。専門は日本中世史、荘園景観の復元研究、中世史料学など。

神原家は甚造からひ孫まで続く法律一家

神原〉神原甚造のひ孫の神原千郷（ちさと）です。甚造には2人の娘がおり、私は長女の恒子の孫になります。甚造は香川大の学長になる前は裁判官でしたが、祖父、父、私も法律家という家系です。恒子は小さい私に、大好きだった父・甚造の話をよく聞かせてくれました。

守田〉日記にも恒子さんの話が多く出てきますが、恒子さんは神原先生の影響を受けて法律家を志したのでしょうか。

神原〉母とも話したのですが、そのような影響はなさそうです。しかし、私は小さい頃から「あなたは法律家になりなさい」と言われていたので、そういう意味では影響を受けていたかも知れませんね。

歌人「神原彩翅（あやは）」として

守田〉神原先生は、若い頃から「明星」に投稿するなど、歌人「神原彩翅」としても名を残されていますね。（短歌1）

神原〉生涯を通して多くの歌を詠んでいますが、記憶に残っているのは1人目の妻のすみが2人の幼い子どもを残して亡くなった後に詠まれた歌です。この歌を色紙に書いてずっと飾っていました。（短歌2）

守田〉すみさんを亡くし詠まれた歌は約四百首にものぼります。その歌の数の多さと内容からも当時の悲しみが伝わってきますね。また晩年の短歌には故郷について詠まれたものも多く、郷土愛が感じられます。（短歌3）

（短歌1）
木枯は酔ひて踊りて物の怪が鼓にあはすぞめき歌かも
『明星』明治36年12号

（短歌2）
今もなほ夢には母の居たまひてをさなき我れの髪なづるなり
色紙に書いて飾っていた哀傷歌

（短歌3）
多度津の浜ぬれつつ浪と遊びける其の日は遠き昔となりぬ
『月刊香川』昭和26年6月号

探求心を胸に貴重な資料の海へ

守田〉神原先生は文庫の収集物や日記からも、好奇心旺盛で几帳面なお人柄が伺えますが。

神原〉非常に字が好きだったようなので、テレビもラジオも無い明治の時代、口から出る言葉以外で人と繋がることができる書籍に興味を持ち、それが神原文庫の収集に繋がったことは想像に難くないですね。

守田〉文庫のコレクションは、その分野が多岐に渡っています。

神原〉書店に行けば「この竿からこっちの竿まで」という大胆な買い方をしていたようです。吉祥寺の家にもリアカーに本をたくさん積んだ人たちがよく売りに来ていたとか。甚造はそうやって集めた物を調べて紐解いていく時間を、とても楽しみにしていたそうです。

守田〉そういう売買の記録も詳細に残されています。

神原〉甚造は、自宅の本棚の配置も描いていまして。各本棚を全て撮影し、写真を保管していました。

京都寓居書斎（大正3年）

初代学長就任に至る経緯

守田〉神原先生は元々香川の出身ですが、なぜ香川大の初代学長になられたのでしょうか。

神原〉当時の香川県知事・金子正則さんの働きだったと聞いています。金子さんも香川県出身の元裁判官で甚造と同じ、しかも先ほどお話した恒子の夫も同じ郷里の出の裁判官で、金子さんと一歳違いだから、何か縁があったのかもしれません。また私は司法修習で高松で2年過ごした時に、金子さんを尋ねたのですが、その際に「自分が思い入れを持って学長にした」と言われていた記憶があります。

守田〉学長就任にあたり、強い決意がうかがえる十五首の短歌が四国新聞に掲載されていますね（短歌4）。神原文庫を今後、どのようにして欲しいですか。

神原〉甚造が集めた物が研究に役立ち、現代の人が何かを見つけてくれるきっかけになれば、とてもうれしいです。私自身、人生を楽しむという意味で、甚造には世代を超えて教えてもらえていますから。

（短歌4）
身も魂も大き使命に新しき力おぼえて起ち上がりつれ
学長就任にあたり短歌十五首が掲載される（四国新聞）

神原先生のご子孫

弁護士
神原 千郷（ちさと）さん
神原甚造先生のひ孫。曾祖父と同じく法曹界へ進み、現在は都内の弁護士事務所に所属。

初代学長 神原甚造の軌跡

- 1884年（明治17年）／香川県仲多度郡多度津町にて出生
- 1901年（明治34年）／丸亀中学校 卒業
- 1904年（明治37年）／第三高等学校（一部法科）卒業
- 1908年（明治41年）／京都帝国大学法学部 卒業
  ／司法官試補
  ／同大大学院にて刑法研究
- 1909年（明治42年）／すみと結婚
- 1911年（明治44年）／京都地裁判事
- 1912年（明治45年）／京都区裁判所判事
- 1913年（大正2年）／兼京都地裁判事
- 1914年（大正3年）／大阪区裁判事兼大阪地裁判事
- 1918年（大正7年）／すみ逝去
- 1919年（大正8年）／京都区裁判事
- 1920年（大正9年）／京都地裁判事
- 1921年（大正10年）／神戸地裁部長
  ／京都地裁部長
- 1924年（大正13年）／東京控訴院判事
- 1925年（大正14年）／りきと再婚
  ／大審院判事
- 1936年（昭和11年）／高等官一等
- 1942年（昭和17年）／勲二等
- 1945年（昭和20年）／大審院判事部長
  ／依願免本官
  ／従三位
- 1950年（昭和25年）／香川大学長
- 1954年（昭和29年）／逝去

明治41 法衣写真

明治44 恒子さんを抱っこするすみさん

昭和27年 旧学長官舎にてりきさんと

キャンパストレジャー
CAMPUS TREASURE Vol.4

第二章

筧学長の文庫に対する熱い思い

文化資産を守ってくれた収集家たちに思いを馳せる

神原文庫は、神原先生がその生涯をかけて収集された収集物を、先生のご子孫の方から香川大にご寄贈いただいたコレクションです。その量は膨大で、旧蔵図書・資料約12,000点、16,560冊（和漢書15,890、洋書670冊）等で構成されており、現在も調査が進んでいます。

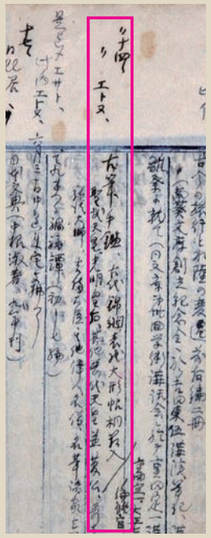
明治維新の廃仏毀釈や戦争により、多くの文化資産が破壊・流出し、古くから保管されていた重要な文化財が多く失われました。

その様な状況下で、流出した文化資産を収集する動きがありました。こうした活動は、文化資産の保護に繋がりました。神原先生も収集家として尽力した一人で、収集活動は大審院（現在の最高裁判所にあたる）の判事を務められていた頃の第一次世界大戦前から第二次世界大戦終戦頃までの大動乱期に活発に行われていたようです。

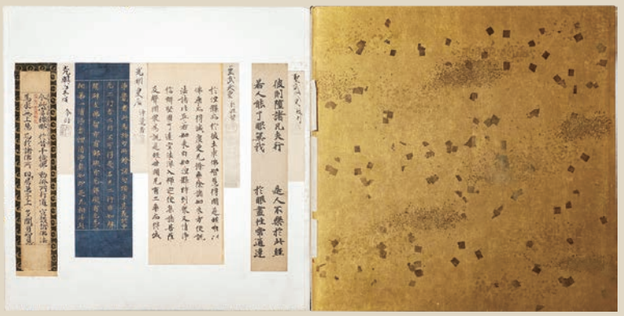
流出した貴重な文化資産の保護に尽力した神原先生ですが、同じ思いを持っている方と繋がりを持ち、情報交換を積極的にされていたのではないかと思います。今のように便利な通信機器もないので、収集に訪れた現場で偶然出会った人などとネットワークがあったからこそ、収集活動をより効果的に行うことができたのではないでしょうか。神原先生の収集記録である「古資料収集記録帖」の中に記載があるにもかかわらず、現物が確認できない物も存在します。他に求めていた物を入手するためにやむを得ず手放したり、収集家同士でお互いに欲しい物を交換したりしてコレクションを充実させていたかもしれません。

神原先生が個人的に集めた文化資産の量は他の収集家と比較しても驚くほど多く、収集した物の中には非常に価値が高い物も多く見られます。さらに、神原先生は、ただ集めるだけではなく、いつ、どこで、どのように収集したか細かく記録し、文化資産の流出の足取りを追うための手がかりとなる貴重な資料を作成しています。（※）

時代の流れに抗い、文化資産の消失をせき止めた収集家たちの活動を思うと、敬服の念が立ち込めてきます。彼等の活動がなかったらと考えるとつくづくぞっとします。



（※）
古資料収集記録帖
6月14日条には、神原文庫の中でも際立つ「古筆手鑑」の購入が記録されている。



『古筆手鑑』古筆切貼交折帖［江戸後期］編
伝聖武天皇等宸筆や伝弘法大師など著名人の書などが収められている。

神原文庫の資産を未来へ活かすために

香川大では現在、香川県独立の父である中野武営氏にフォーカスしてデジタルアーカイブを制作する研究が行われています。古い写真や関係資料にメタ情報を付与することで、時間・空間（地理）を軸として様々な切り口でデータにアクセスすることができます。この技術を用いて神原文庫の資料もデジタルアーカイブ化すれば、記録の中に埋もれている人と人の繋がりが見えてくるかもしれません。

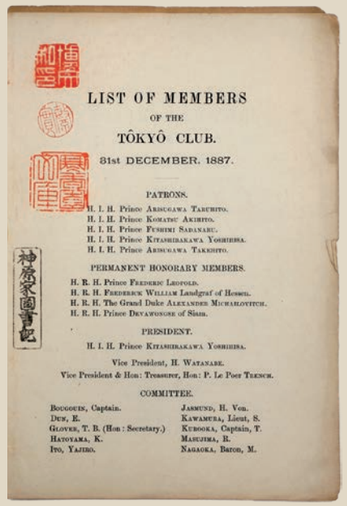
文化資産の価値は後世の人によって高めていくことが可能です。今後は21世紀の現代の力を駆使して、神原文庫に新たな価値を付加していかなければと思います。そのためには文理融合であらゆる知恵を絞って取り組まなければいけません。

神原先生は、文化資産を集めるだけではなく、生涯を通して歌を詠み続けた歌人でした。神原先生が詠まれている和歌からは、時代を問わず全ての人に通じる人間の情が感じ取れます。和歌の解釈は時代によっても変わるかもしれませんが、人の心を揺さぶるものはいつの時代も同じではないでしょうか。神原文庫にも、様々な研究分野からも見出すことができる普遍的な価値が秘められていると思います。

第4次産業革命の時代では、デジタル技術の発達で労働時間として取られていた時間が減り、余った時間をどのように使うかということが重要になってきます。その時間をいかに幸福に過ごすかということが問われてくるでしょう。それを考えるときに、神原先生が判事をされて多忙であった中でも充実した人生を歩まれていたことがヒントになると思います。学生たちにも神原先生の心の動きや収集物への哲学などを知ることで、人生をいかに生きるべきかを考えてほしいと思います。

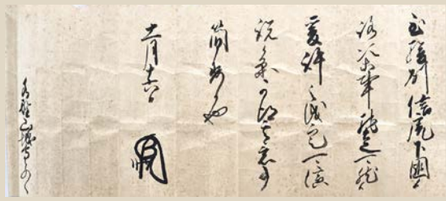
70年前に神原先生を学長に招いた金子知事と、昨秋東京から香川に戻られた池田知事。お二人とも香川県を興したいという思いは同じではないでしょうか。地方移住が推奨されている中で、選ばれる県や選ばれる大学になる必要があります。

香川大は「知の拠点」として、神原文庫を含め魅力ある香川県の独自の文化や資産を今一度見直すとともに郷土を愛する人材を育成していきます。先人の思いに新たな思いを重ね未来社会へ繋げていくことが大きな使命だと思っています。



『LIST OF MEMBERS OF THE TOKYO CLUB.』
明治初期の東京倶楽部の会員名簿。
蔵書印から伊藤博文から岡谷繁実の手にわたり、
その後神原先生が入手したものとわかる。

『明星』
明治36年12号～明治40年1号まで、
神原彩翅の約百六十首の短歌が掲載。



『室町幕府13代将軍足利義輝書状』年未詳11月16日